

小 春 日 和

こ は る び よ り

2018年 第38号
発行
愛媛県立中央病院
松山市春日町83番地
TEL:089-947-1111

<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/>

第22回 愛媛県立中央病院がん治療センター市民公開講座を開催しました！

愛媛県立中央病院 血液内科 中瀬浩一

平成29年12月3日(日曜日)に、当院の講堂において、第22回の愛媛県立中央病院がん治療センター市民公開講座を開催しました。今回は、「わたしがんと向き合い方～患者・家族が語るそれぞれの迷いと選択～」と題して、実際にがん治療の経験のある患者さんや現在がん治療中の患者さんを支えているご家族の方をお招きして、それぞれの「がんと向き合い方」についての経験をお話し頂きました。当日は当院の講堂に約150名の方にお越し頂きました。

当院のがん治療センター市民公開講座は、県民の皆様ががん治療に取り組む当院について知って頂き、また、がん患者さんやご家族の方に、がんの療養に役に立つ情報を提供したいと考えて、年3回開催しています。過去の市民公開講座では、各種がんの診断や治療について・がんの療養を支える情報(在宅療養・栄養・リハビリ)など、がんの療養に役に立つテーマを選んできました。また、昨年度の市民公開講座では、京都の鈴虫寺の住職をお招きして、穏やかな日常を過ごせるような、みなさんが聞いてリラックスできるような会を開催したこともありました。

がん患者さんは、病気が見つかったから、その後の長い療養の間も、多くの悩みや迷いを抱えて過ごされていると思います。また、それはがん患者さんだけのことでなく、患者さんの療養を支えるご家族の方も同じだと思います。がん患者さんやご家族のお話を伺い、先輩たちはその悩みや迷いをどのように乗り越えていったのかを知る事で、一人ひとりが「わたしがんと向き合い方」を考えるきっかけにもらえると思います、今回の市民公開講座を企画しました。

今回の内容は二部構成で、第一部は朝日新聞東京本社映像報道部次長の上野創さんから、「がんと向き合って～1人の患者の経験から～」と題したご講演を頂きました。上野さんは入社4年目で精巣腫瘍を発症し、治療後も2度の再発を繰り返し、約3年間入院を繰り返して治療をされた後、現在も元気にお仕事を続けられています。新聞記者としての仕事の中でも、特にご自身の闘病の経験を「がんと向き合って」と題した連載記事にされ、また「がん、その先へ」という、がんと向き合う方々についての記事を執筆されています。



朝日新聞東京本社映像報道部次長 上野 創 氏

今回の市民公開講座では、上野さんからご自身のがん治療の経験をお聞きしました、

抗がん剤の治療は吐き気・脱毛・倦怠感などの副作用で苦しく、特に大量の抗がん剤治療の後には、合併症でそのまま死んでしまうのではないかと恐怖に襲われたそうです。また、治療が効いて病気が良くなっても、常に再発の不安が付きまとい、気分の浮き沈みが激しかったとのことでした。一方、ご家族や同僚の存在は、治療中のずっと心の支えとなり、特にがんを発症してから上野さんとの結婚を決意された奥様の存在がとても大きかったそうです。

仕事への思いも、上野さんの闘病を支えたそうです。がんを患った事で気が付いた事を記事として残したいと思い、多くの記事を書かれました。また、このままがんに支配されたまま死にたくないという思いが、仕事のみならず上野さんの人生に力を与えたようです。

当日、上野さんの奥様も来場してくださっており、その奥様から、20年前のご主人である上野さんのがん治療の時と、最近亡くなったご自身の父親のがん治療の時を比べると、最近はより多くの方がこの問題に関心を持ち、がん患者さんとその家族を取り巻く環境も随分変わったことが、感慨深く思い出されるとお話されました。また、闘病していた父親に思いやりを持って接してくれた医療従事者から、家族としての父親との接し方に気づかされたこともお聞きしました。



(左側) NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会
理事長 松本 陽子 氏

第二部は、NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会理事長の松本陽子さんに進行をお願いして、白血病を発症された後に骨髄移植を受けられた方、腎がんの患者さんを支えたご家族の方、そして第一部で講演いただいた上野さんにパネルディスカッション形式でお話を伺いました。当院で骨髄移植をされた白血病の患者さんは、白血病という病気が突然判明した時の信じられない気持ち、白血病の化学療法から骨髄移植まで、とても長い時間の闘病で大変ではあったが、家族や、ほかの患者さんの存在によって、頑張ろうという気持ちが後押しされたことをお話いただきました。また、骨髄移植の体験者として、今後骨髄移植を受ける患者さんへの言葉として、骨髄移植は非常にきつい治療であり、なかなか治療を受ける決断ができないかもしれないが、そんなときには、治療後、

また家族と一緒に過ごせたり、行きたいところに行けたり、子供の成長を見たい、など、移植で元気になった自分を思い浮かべながら頑張ってはどうかとのアドバイスがありました。

また、ご家族としての立場の方に、腎がんの父親の治療を支えた経験をお話いただきました。その方は看護師として働かれています、実際父親の介護をすることとなると、看護師であるというよりは、ただの一人の家族の気持ちであったとのことでした。病気の治療にあたっては、父親の選択・気持ちを大切に、父の気持ちをしっかり聞いて父親の治療を支えていかれました。在宅療養に切り替えてから、積極的な治療を中止してからの事をお話いただきましたが、その時に「患者じゃなくなった（普通の父親に戻った）」と考えを変えて、今までパジャマを着ていたのを、普段着に着替えて過ごしてもらうようにしたそうです。また、介護休暇を分割で取得して仕事とうまく両立しながら父の療養を支えることができた事など、がんの父親の介護をするうえで工夫されたこともお聞き出来ました。また、家族だけではがん患者さんを支えることは難しく、社会資源（訪問診療・訪問看護など）を上手に利用することが、病気の治療をうまくやっていくコツであると、ご自身の経験からお話いただきました。

最後に上野さんから、がんは大変な出来事ではあるけれども、がんになって初めて気が付く事・初めて知り合える人・初めて気が付く美しい景色などがあり、がんはただ辛くて悲しくて悔しいものではないことを、ご自身の闘病と、記者として知り合った他のがん患者さんの人生によって気づかされたとお話いただき、会の締めくくりになりました。

がん治療センターの市民公開講座には、がん患者さん・ご家族・県民の皆様など多くの方が来られます。がんの療養は、患者さんそれぞれでずいぶん違います。今回がん患者さんやそのご家族の「がんと向き合い方」を会場で聞いた参加者の方々は、自分なりの「がんと向き合い方」を考えるきっかけを持たれたのではないかと私たちは考えました。



今後も愛媛県立中央病院がん治療センターでは、がんの療養に役立つ情報を提供できるよう、充実した市民公開講座を開いていきたいと考えています。今回参加していただいた方に感謝するとともに、ぜひ、次回以降の市民公開講座にも皆さん誘いあわせの上ご参加いただければ幸いです。

「国際規格 ISO15189 認定を取得しました！」

当院検査部・輸血部・病理診断部は、昨年12月7日付けで国際規格 ISO15189 認定（臨床検査室）を取得しました。この認定は、一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査、病理学的検査、生理検査などを実施する臨床検査室の技術能力を評価するもので、「臨床検査室 品質と能力に関する特定要求事項」について、日本適合性認定協会（JAB）の厳格な審査を受けました。今後も検査部全員で厳重に内部チェックを行い、正確な検査結果が出せるよう努めてまいります。



国際規格 ISO15189 認定証
（左側）日本語版 （右側）英語版

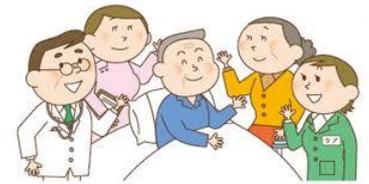
検査部・輸血部・病理診断部の職員

医療安全管理部だより

No.34

皆さん、ご自分が飲んでいるお薬の管理はできていますか？
継続して飲まなければならないお薬を、ご自分の判断で止めた、
適当に自己調整している、などありませんか？

よく「チーム医療」という言葉を耳にするとと思いますが、
チーム医療のメンバーにはもちろん患者さんも入っています。
患者さんの治療を進めていくうえで、医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師、
理学療法士、放射線技師、事務等のメンバーがそれぞれの立場で支援させて
いただいているのです。



それが「チーム医療」なんですよ。

まず、患者さんにできることは医師から出された薬についてきちんとした
知識を持ち、正しく薬を飲むことです。（薬については薬剤師さんに聞くと良く教えてもらえますよ(^o^)
一回くらい飲み忘れたからと言って落ち込むことはありません。

人間、忘れることは誰にでもあることです。ただ、ずっと忘れてはダメですよ(笑)。

もう一つ、サプリメントや健康食品を愛用されている方はいませんか？



実は私もサプリメントは大好きで、ネットで調べては試したりしています。
ただ、要注意！！

サプリメントの中には、手術前には飲んでいてはいけないものもあります。
あるサプリメントを飲んでいたために手術が延期になってしまった事例もあります。
病院受診時は、必ず、医師に飲んでるサプリメントがあれば伝えてくださいね。
患者さんからの情報はとても大切です。遠慮なさらず何でもお伝えください。
宜しくお願い致します(*^。^*)

医師の異動 (30.1.2~30.3.1)

転出：(診療科) 消化器内科 (氏名) 宮本 勇治

※当院は、平成22年10月29日に『地域医療支援病院』の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって互いに連携を図っている医療機関を随時ご紹介させていただきます。(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

XIV 医療法人誠志会 砥部病院

○所在地：伊予郡砥部町麻生 40-1

○TEL：089-957-5511 ○FAX：089-957-5542

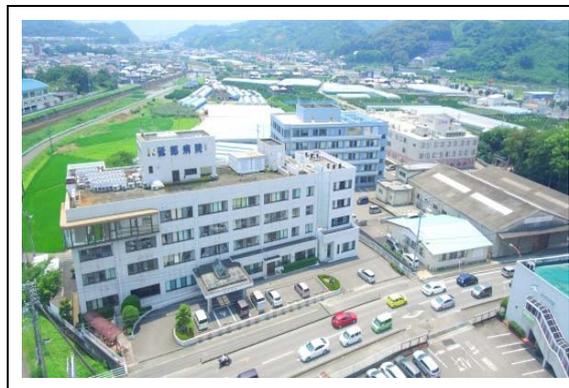
○診療科目：内科、糖尿外来、心療内科、脳神経外科、眼科、
整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科

○病床数：213床（療養病床70床、地域包括ケア病床30床、
認知症治療病床113床）

○外来診療時間 午前9:00～12:30
午後15:00～18:00

休診日（内科）：木曜、日曜の午後、祝祭日、盆、年末年始
（診療科目によって異なります）

- 理念
1. 常に患者さんの立場に立って考え、行動する。
 2. 最新の医療、看護、介護を提供する。
 3. 地域の人々のニーズに応える医療、看護、介護を追求し、実践する。

**XV 愛媛医療生活協同組合  愛媛生協病院**

○所在地：松山市来住町 1091-1

○TEL：代表 089-976-7001 連携室 089-961-4238

○fax：代表 089-976-7029 連携室 089-976-7048

○診療科目：内科（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科）、
外科、大腸肛門科、小児科、アレルギー科、整形外科（リハ
ビリテーション科、リウマチ科）、精神科、心療内科

E-mail：seikyo@ehime-med.org

URL：www.e-seikyo-hp.jp

○病床数：88床（一般病床44床・地域包括ケア病床44床）

○外来診療時間

平日：（月・火・木・金）（午前）9:00～12:30/（午後）15:00～17:00/17:00～18:30（夜間診）

※受付時間（午前）9:00～12:00 /（午後）15:00～18:00

平日：（水）（午前）9:00～12:30 /（午後）15:00～17:00

※受付時間（午前）9:00～12:00 /（午後）15:00～17:00

土曜日：（午前）9:00～12:00 ※受付時間（午前）9:00～12:00

○病院の概要

- ・誰もが平等に医療が受けられる病院
誰もが安心して医療が受けられるように、個室を含め室料差額はいただいております。また、「無料・低額診療事業」を行っています
- ・松山医療圏の二次救急を担うとともに、高齢者の療養を支える病院
松山市救急輪番病院として、その一翼を担います。同時に保健・医療・福祉の要として、地域包括病棟や在宅療養支援病院の機能を活かし、他の医療機関・介護福祉施設と連携しながら、高齢者の生活を支えます
- ・地域の中で健康づくりを支援する病院
医療生協の様々な健康班会、保健大学、各種保健講座、ときめき健康チャレンジの推進を行い、地域の中での健康づくりを支援します
- ・臨床研修指定病院
厚生労働省の指定を受けた日本一小さな臨床研修病院です。医師としての基礎を学び、当院の医師養成は、全職員と組合員で養成していることも特徴的です。